


アルコール・薬物依存症の 思春期発症と当院の治療成績

根本忠典 伊藤恵理 奥村弓恵

太田健介 太田耕平

 医療法人耕仁会札幌太田病院

思春期症の多様化

1980年代・・・中学・高校生年代のシンナー乱用の頻発期。その要因に、家庭・学校の機能不全、非行的背景などがみられた。

近年・・・不登校、アルコール、眠剤依存、自傷行為、摂食障害、大麻・覚醒剤依存など症状が重層・重症化

First step to new life

薬物を使わない生活のために

God grant me the serenity to accept

the things I cannot change,

courage to change the things I can,

and wisdom to know the difference.



SMARPP-Jr.

Serangai Melampikanisa Kelapa Prevention Program
Junior Version

改訂第2版

テキスト：SMARPP-Jr .

松本俊彦（国立精神・神経センター）他、

改訂第2版、2009.1

2008年～治療プログラム
の一部として、薬物依存
CBTを導入

調査方法

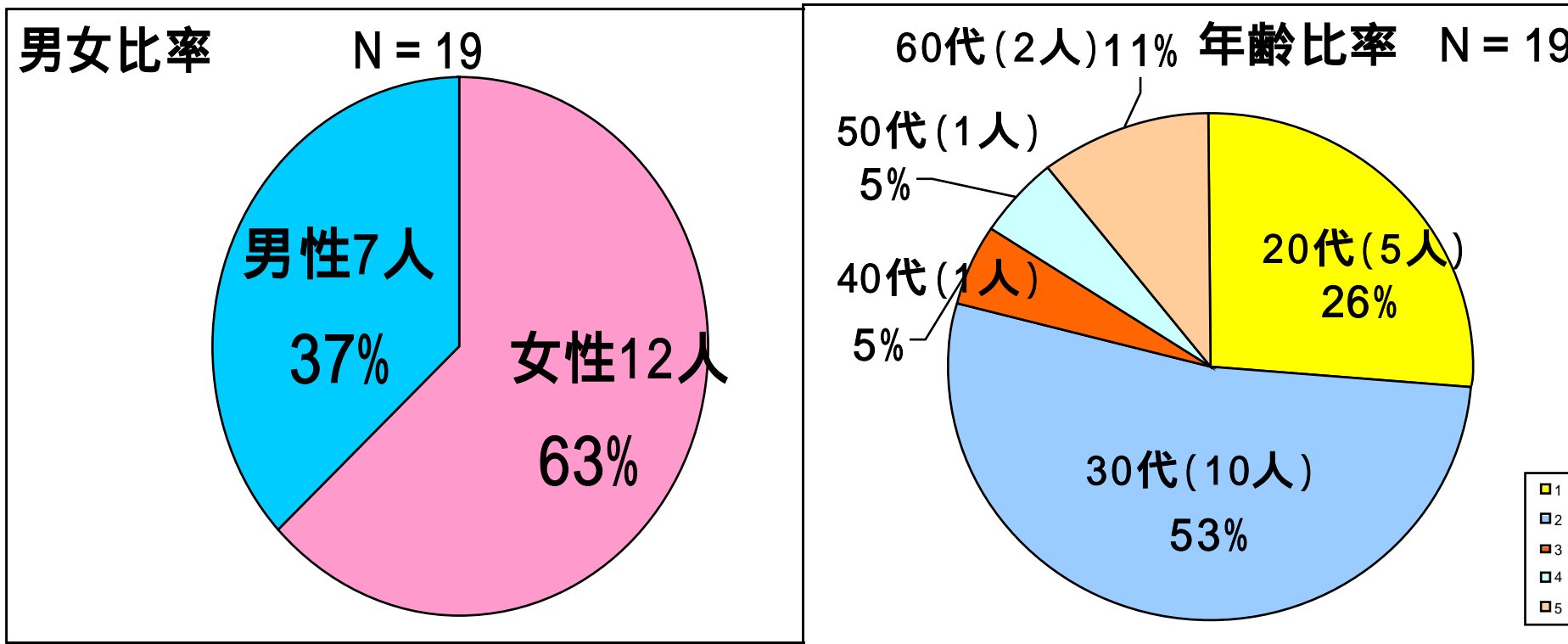
対象：2008年3月～2011年9月に当院でCBTを受けた受療者19人（男性7人、女性12人）。

方法：自作の調査票を用いて電話・面談での聞き取り調査。

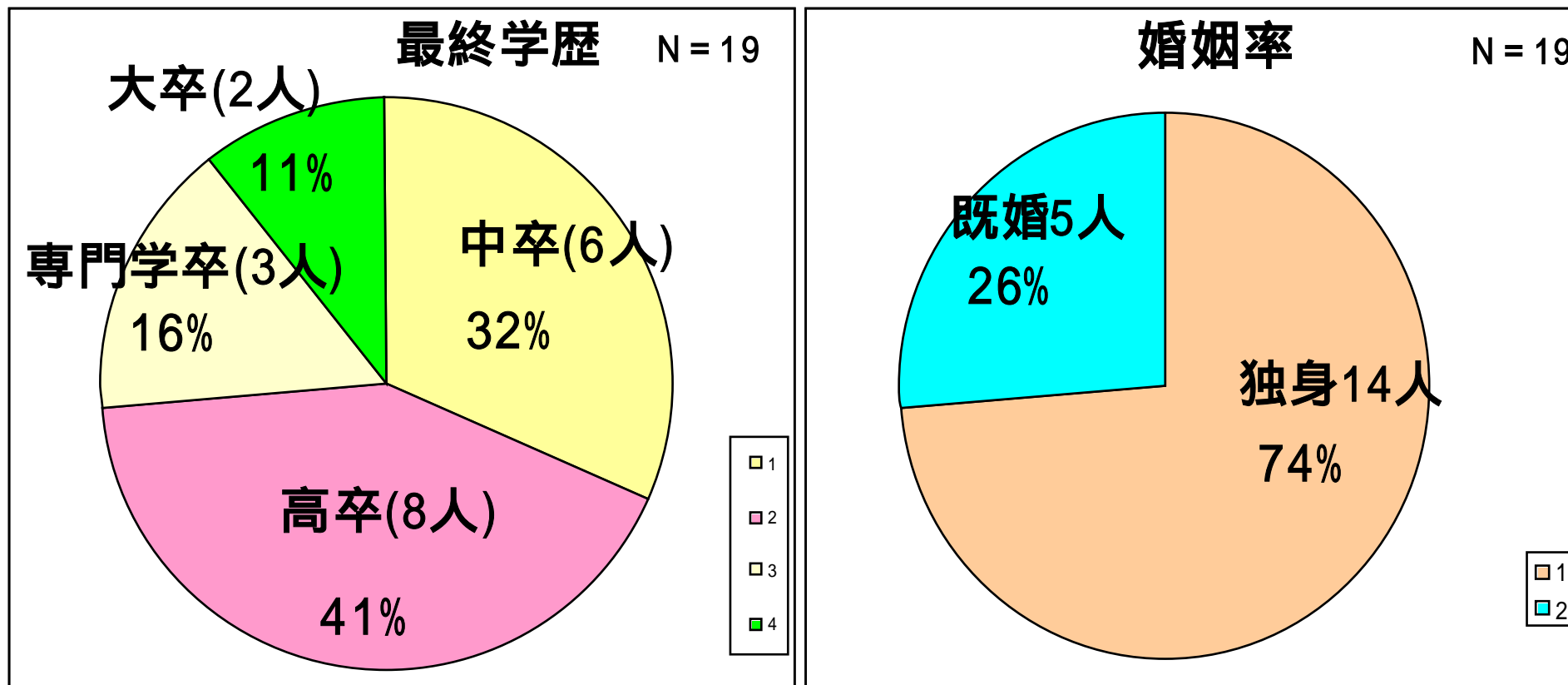
調査項目：再発の有無、就労状況など。

また、WAIS、YGなど心理テストの傾向をまとめた。

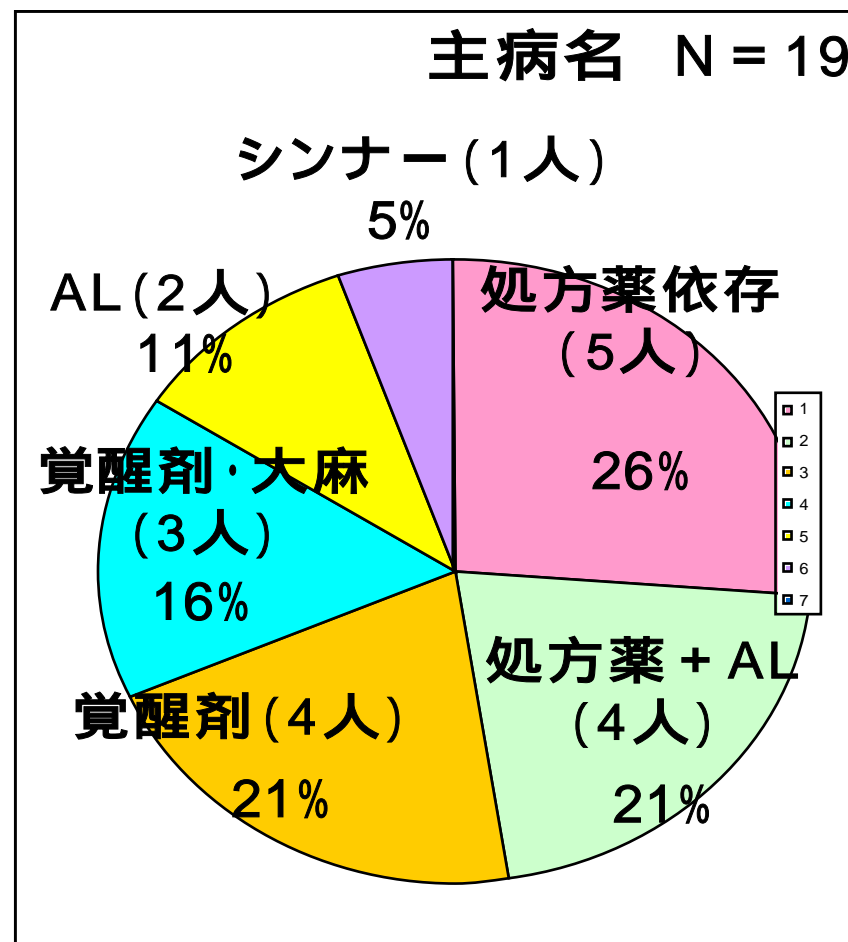
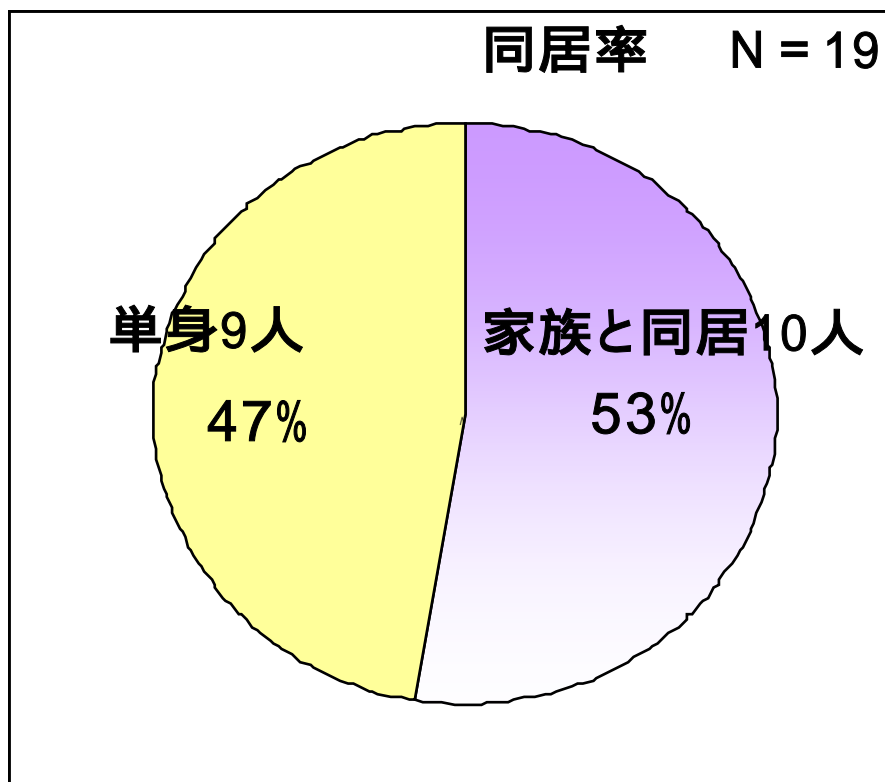
薬物CBT調査結果



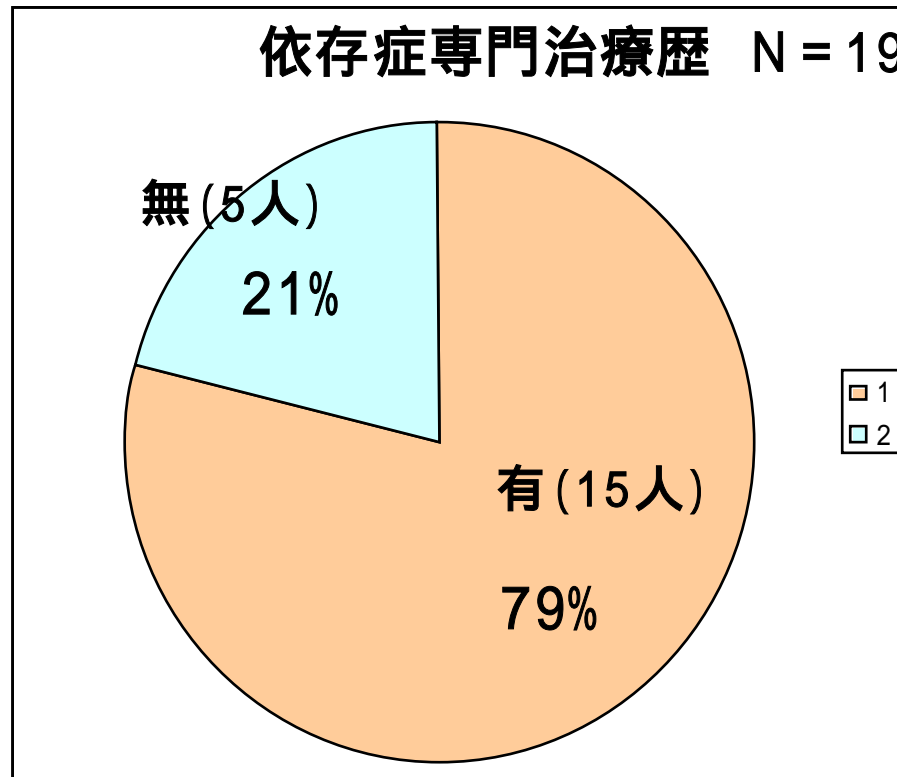
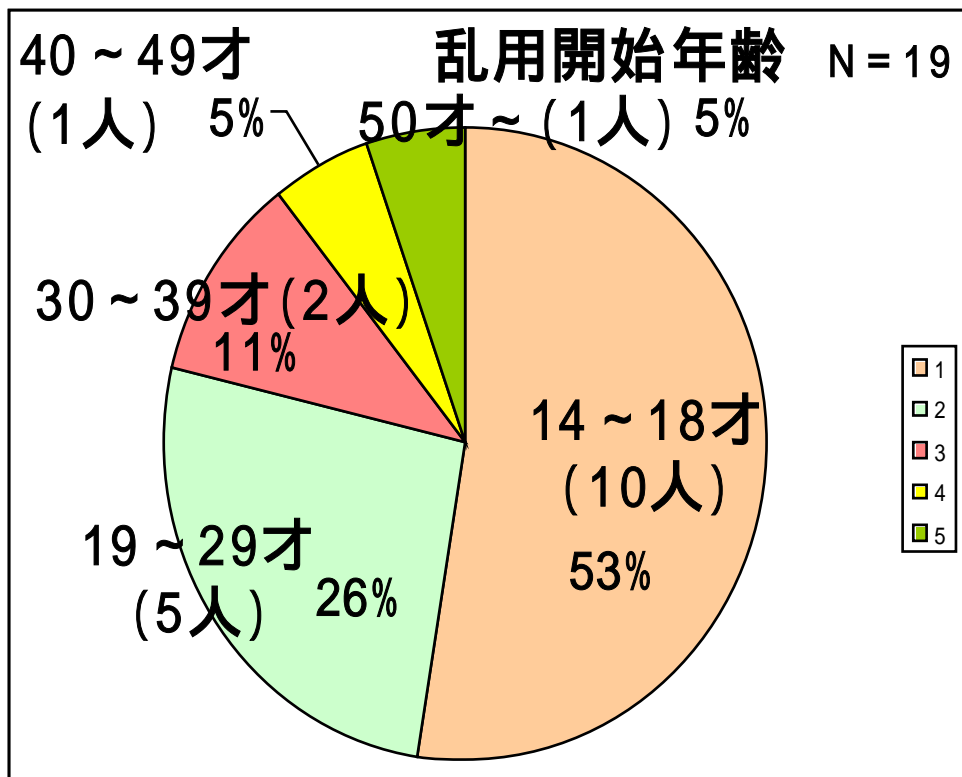
薬物CBT調査結果



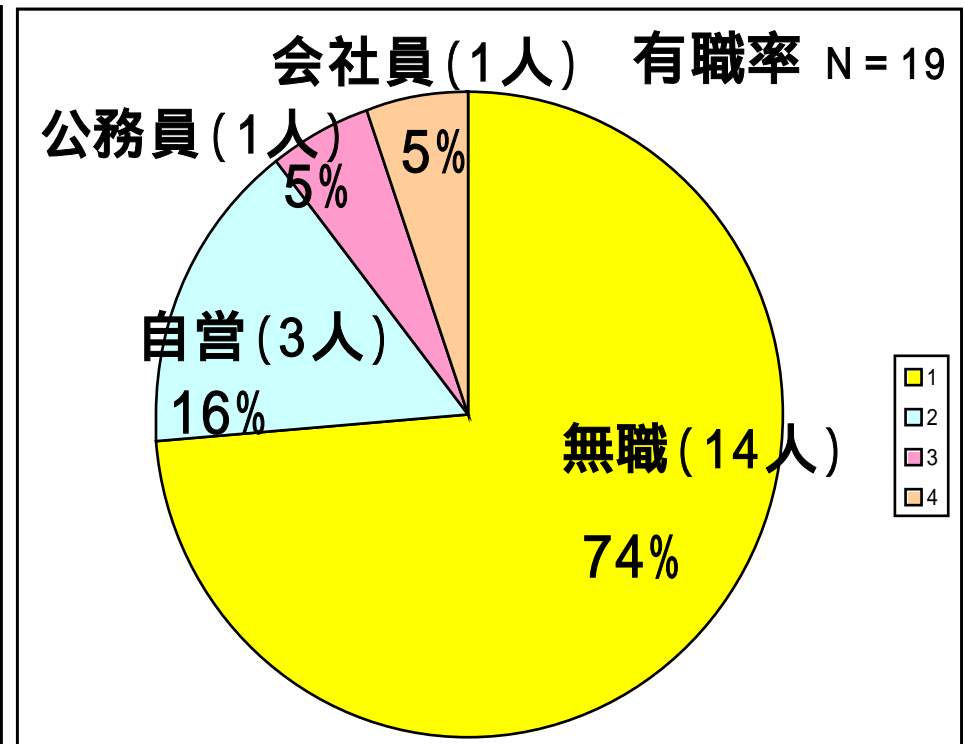
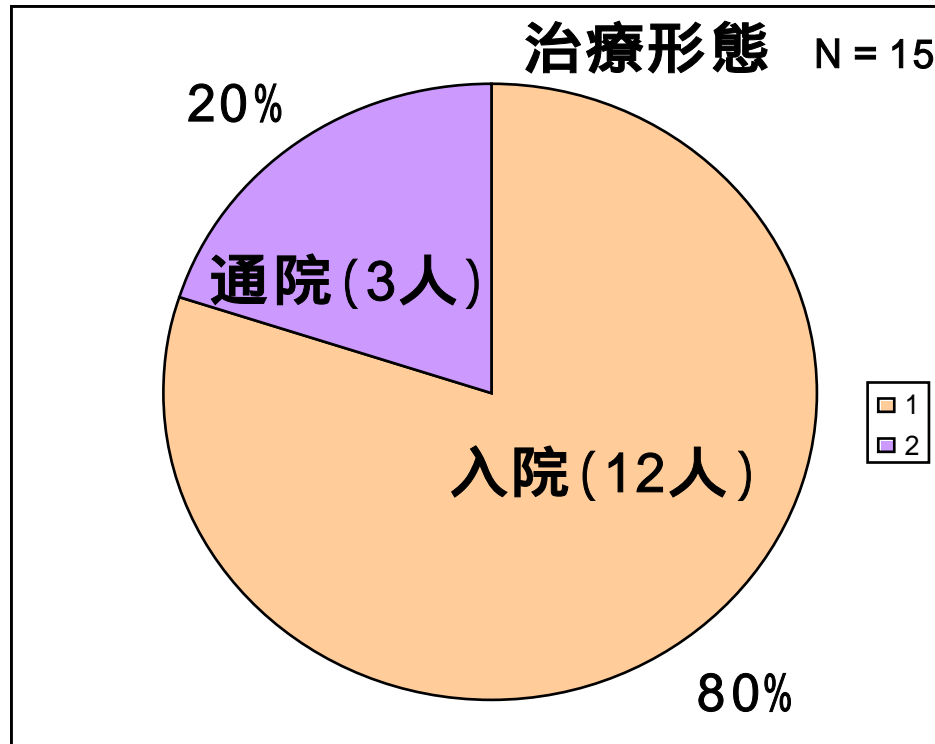
薬物CBT調査結果



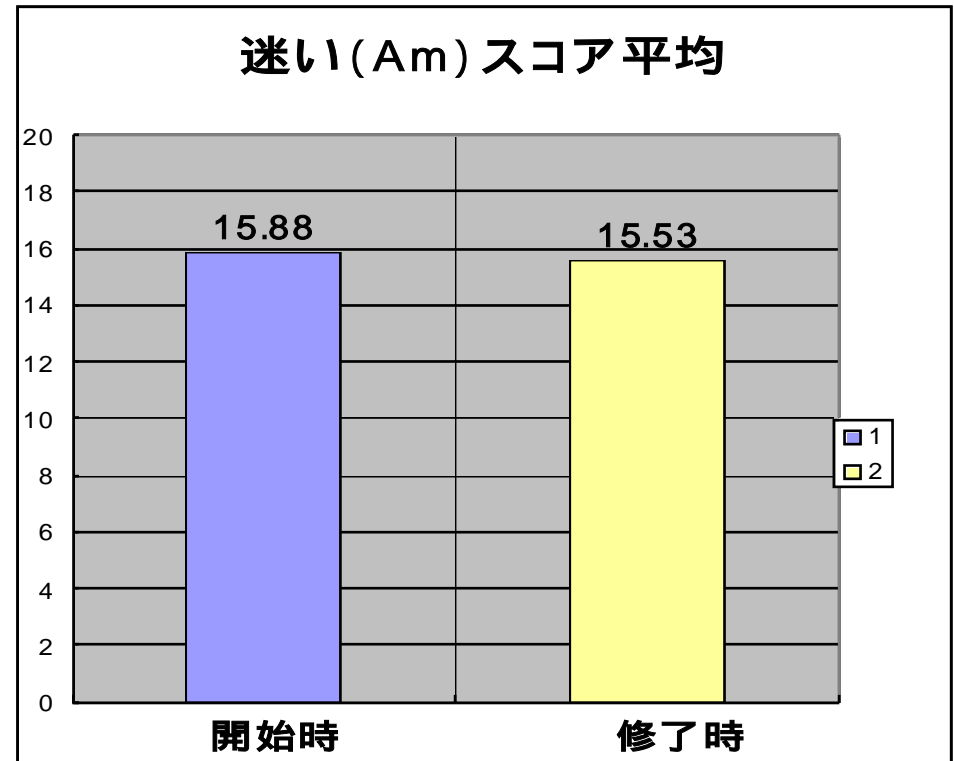
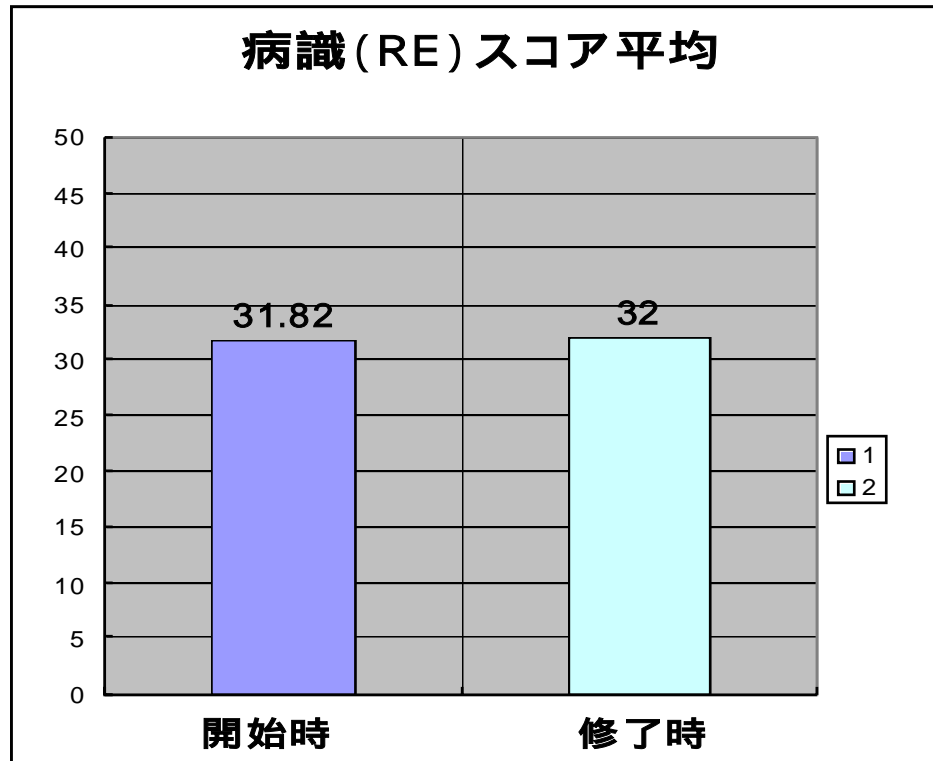
薬物CBT調査結果



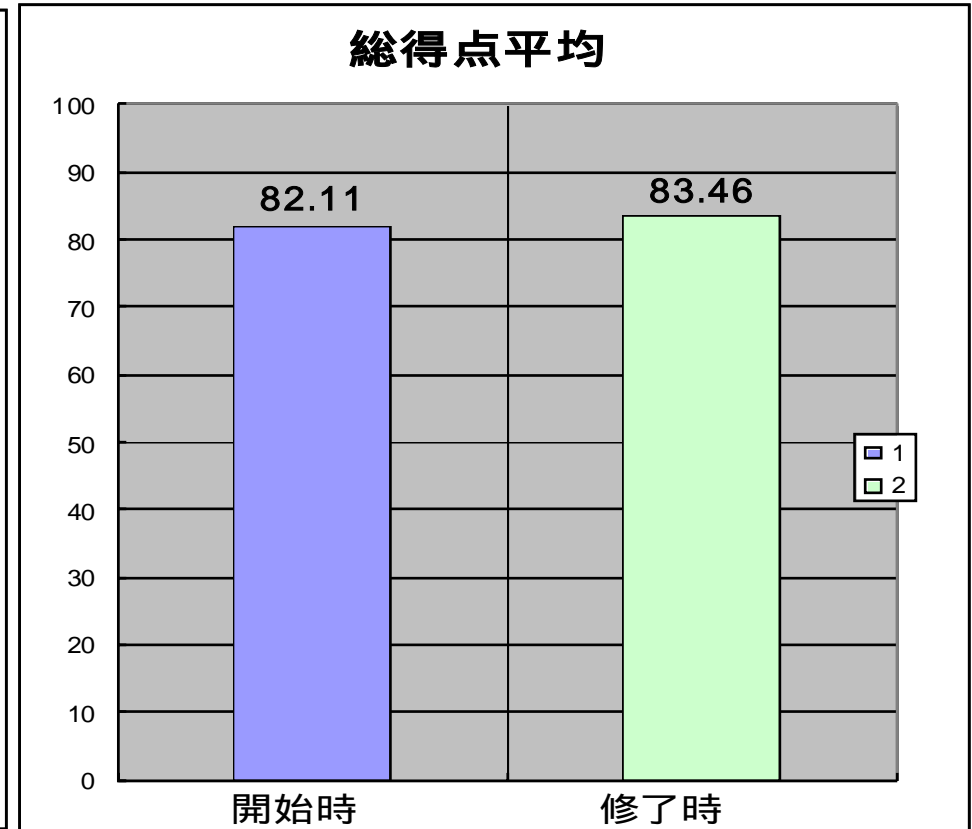
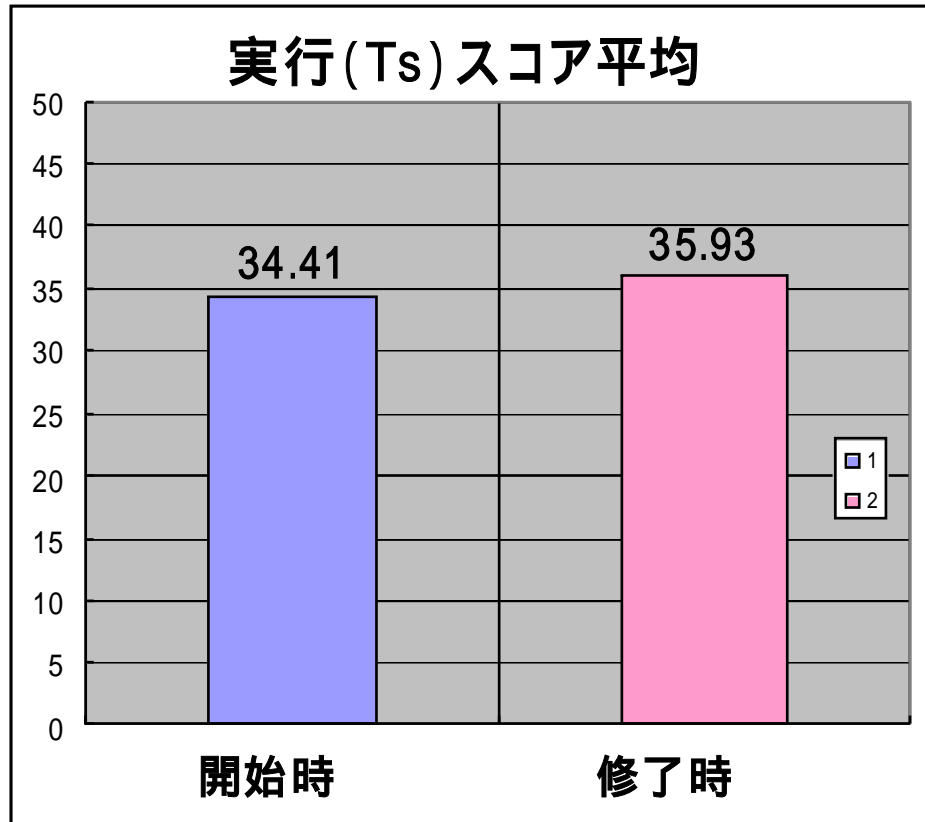
薬物CBT調査結果



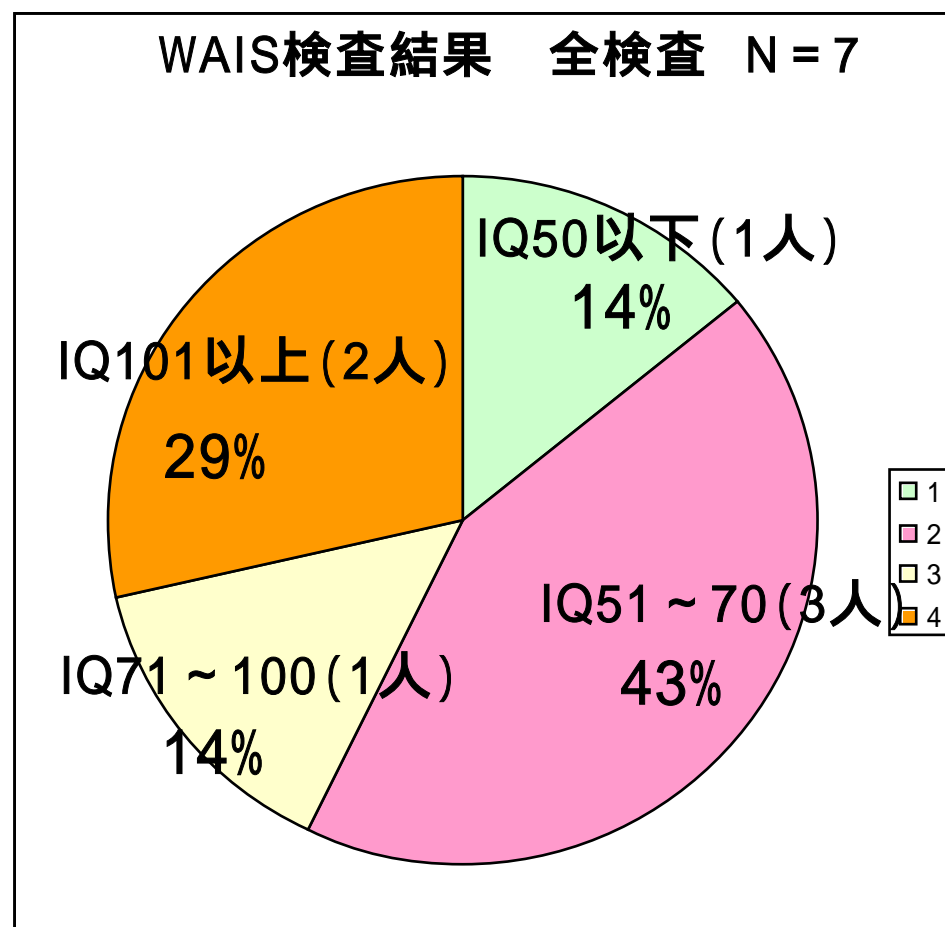
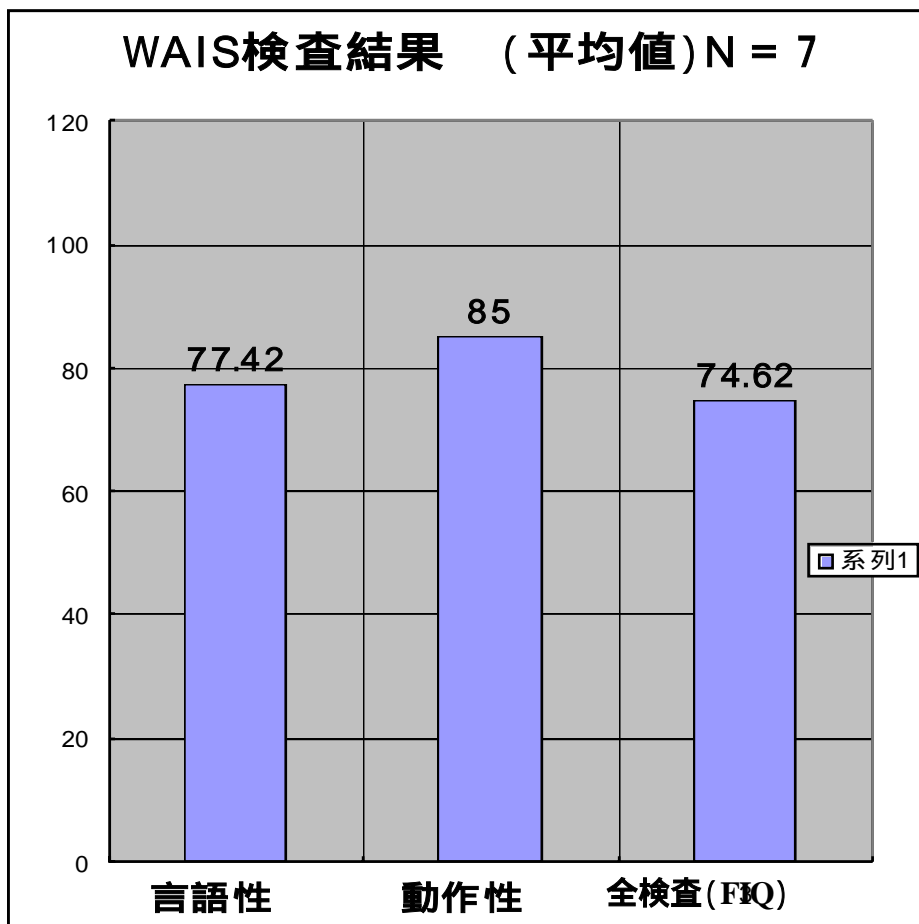
薬物CBT調査結果



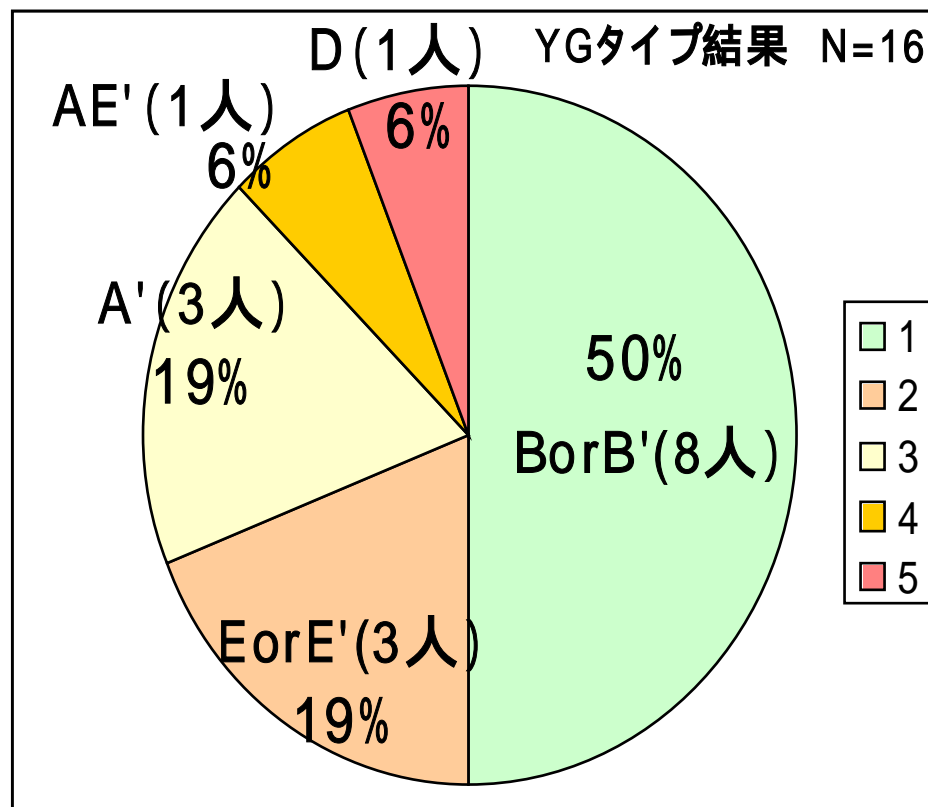
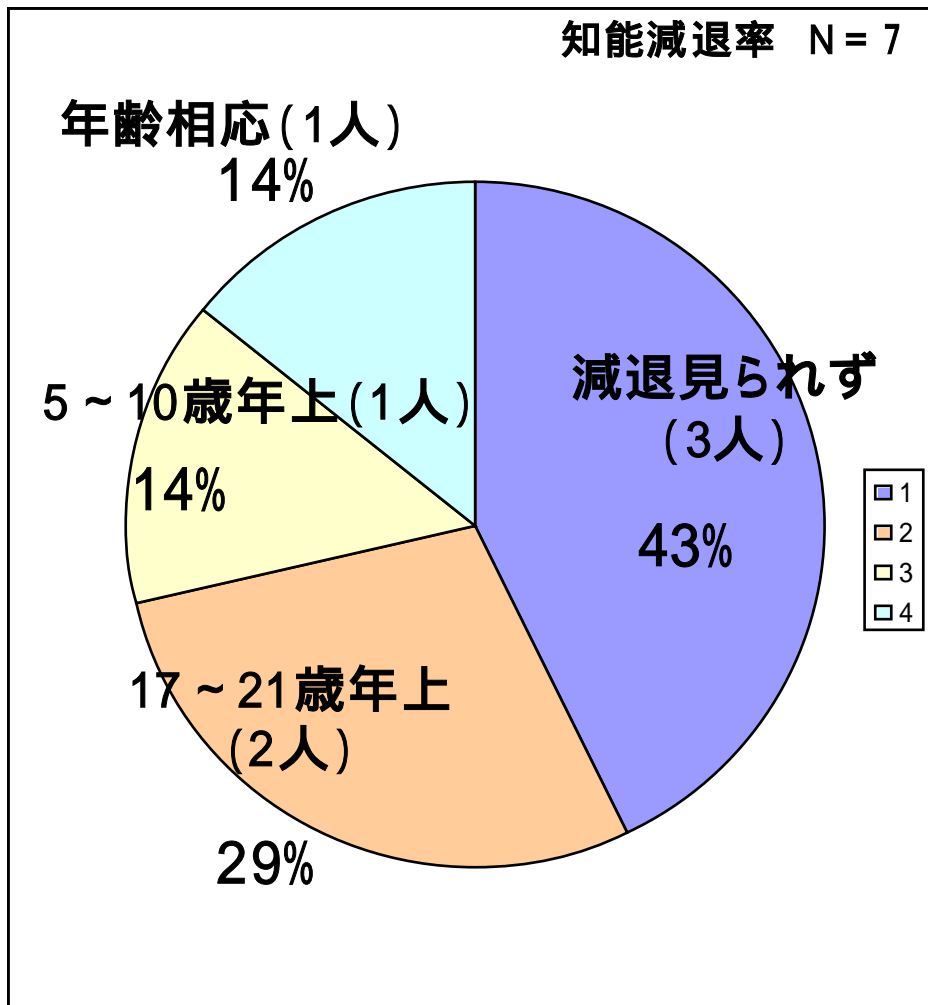
薬物CBT調査結果



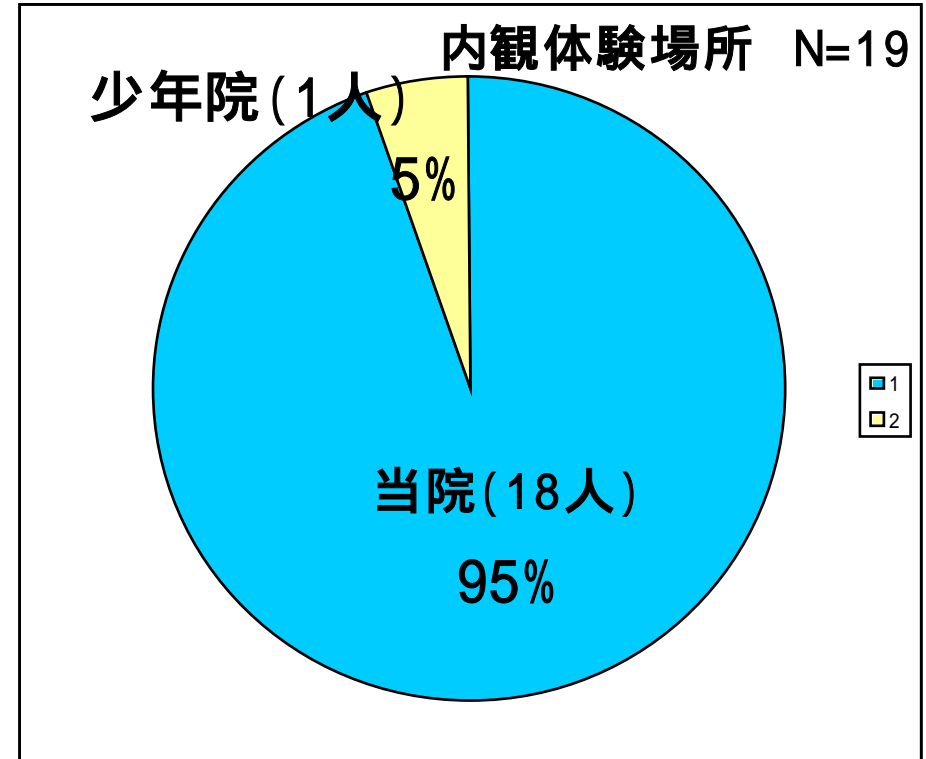
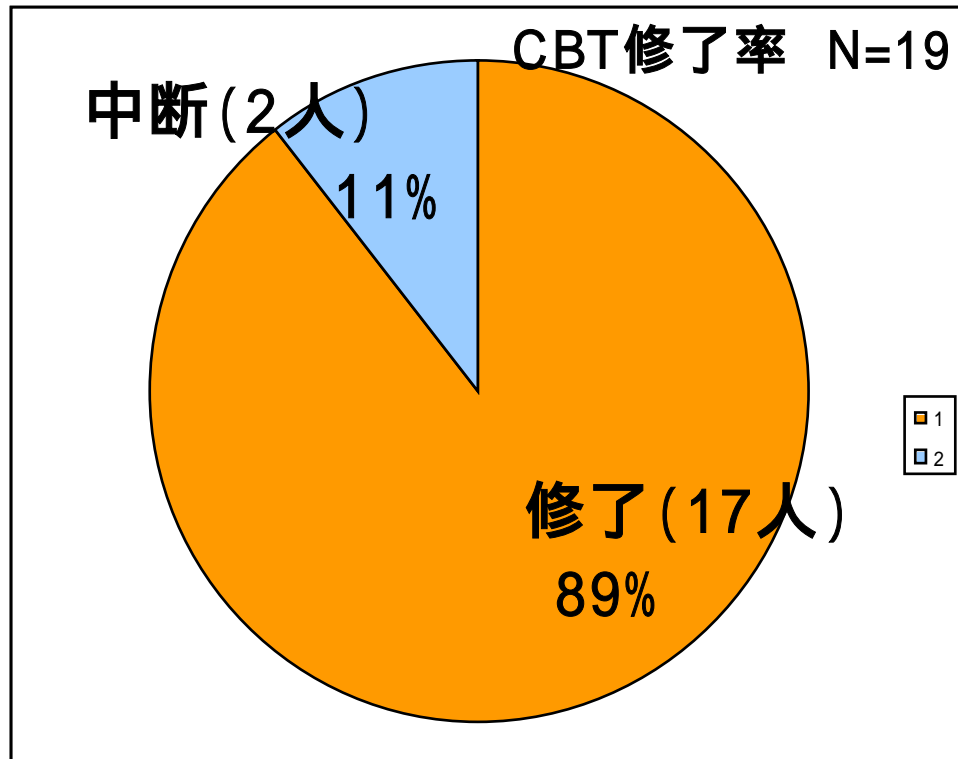
薬物CBT調査結果



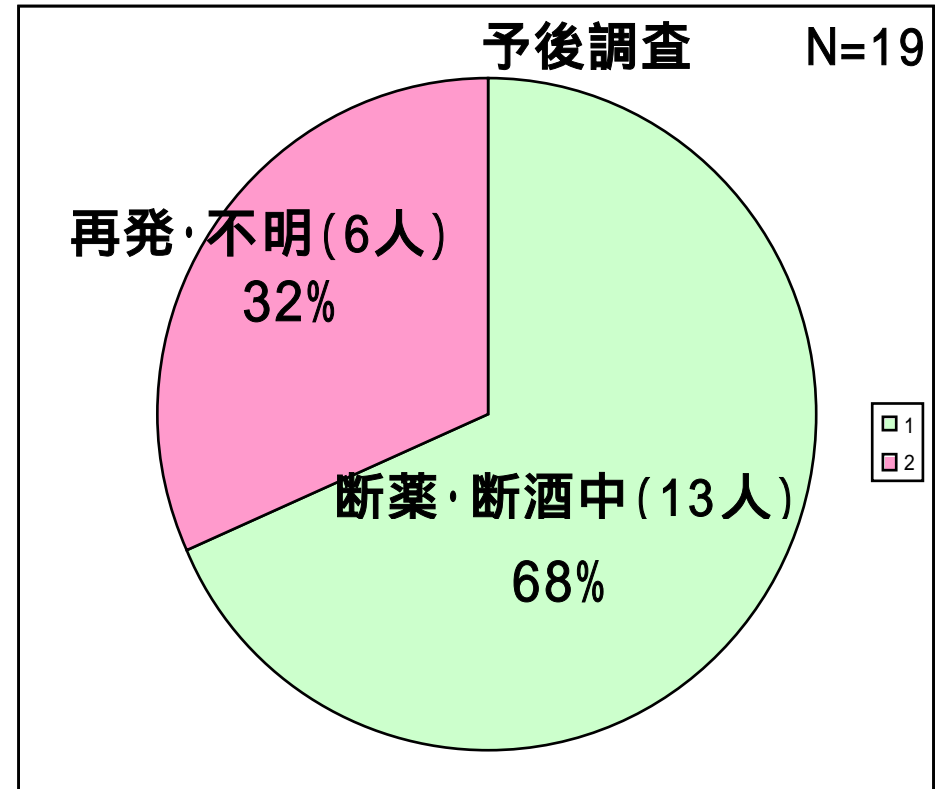
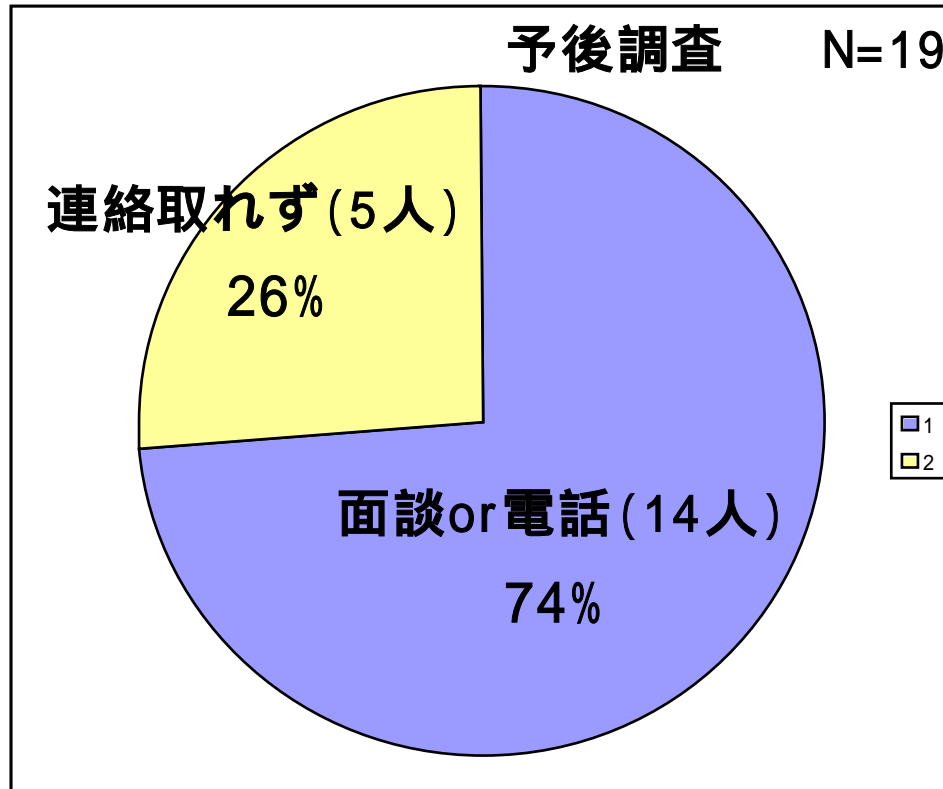
薬物CBT調査結果



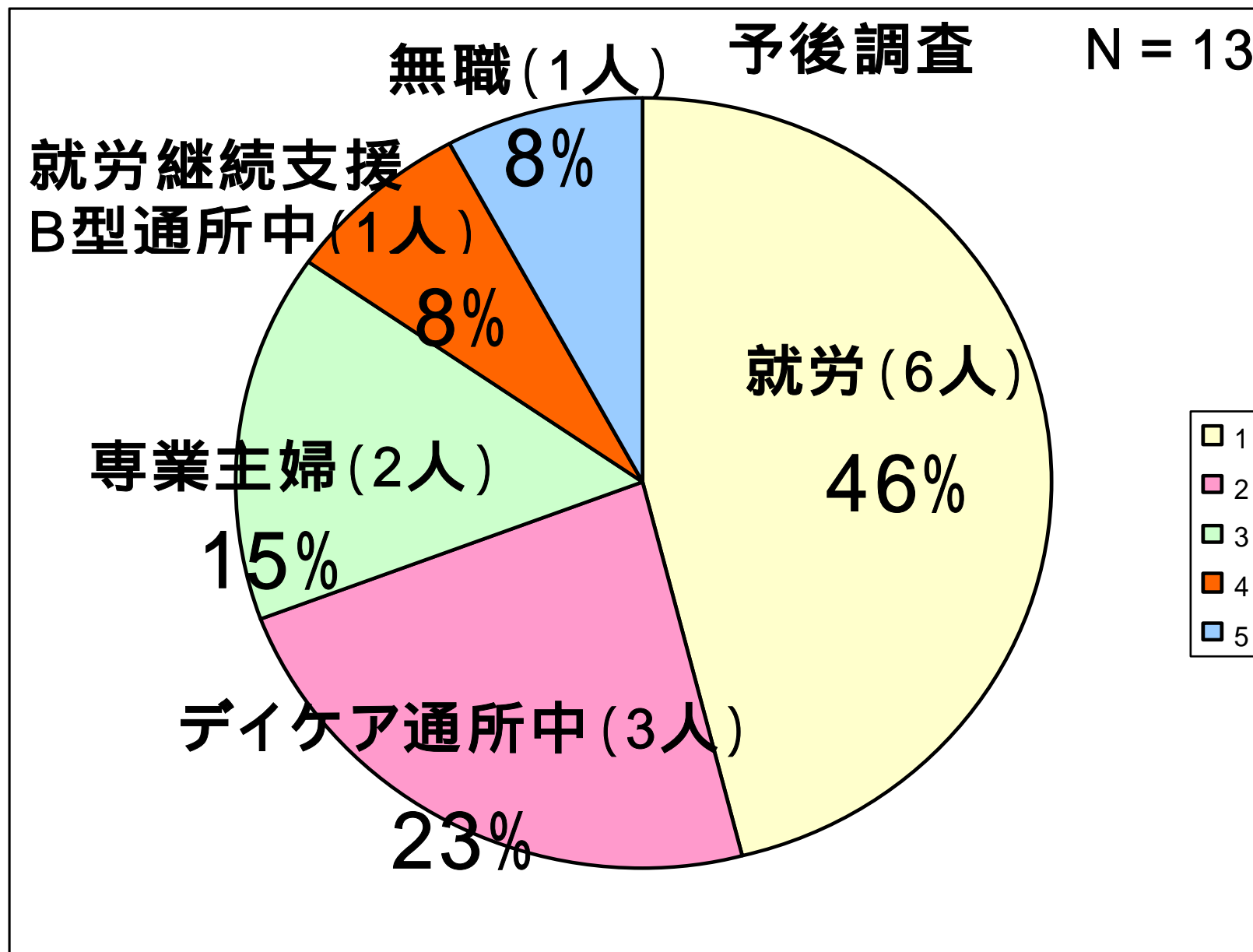
薬物CBT調査結果



薬物CBT調査結果



薬物CBT調査結果



結果とまとめ1

全体の半数が境界線知能。

知能減退率の調査結果、約半数は薬物による知能の減退が見られた。

YG検査の結果、半数がB or B'タイプ(情緒が不安定で行動的)だった。

半数以上が、思春期の14～18歳に乱用開始。

逮捕・少年院・服役などは42%、それ以外もほとんどが警察沙汰。

その後の進路、生活に多大な影響があるため、思春期症の早期対応が重要である。

結果とまとめ2

調査結果(断薬・断酒率)から、病識向上、認知修正、断酒・断薬の強化など、CBTの有効性を認めた。

また、今回の薬物依存専門CBTは、

内観療法・家族療法による認知の修正、改善
機能別デイケア・就労支援施設・共同住居・
各種自助会(断薬会)などの退院後の支援な
ど包括的システム

以上の相乗効果が有効性を高めたと考える